

転移のある進行性腎がんに対する治療

初めて腎がんが見つかった際に腎がんが他の臓器に転移していることがあります。その場合、薬物療法を行う前に腎臓を摘出するかどうかは一人一人の患者さんの病状を検討してから決定します。

現在の薬物療法は、腎がんが増殖、進展するのに関与する特定の分子を抑える分子標的療法剤といわれる薬物が中心となります。現在使用できる分子標的療法剤は6種類あります。また、2016年からは免疫力を高めることで腎がんを治療する薬剤（オプジーボ®）も使用できるようになり、当科でも積極的に使用するようにしております。どの薬剤をどの順番で使用するのか、ということは長期にわたる腎がんの治療で非常に大切になってきます。また、薬物療法による副作用で生活の質（QOL）の低下をきたすこともありますので、一人一人の患者さんの病状を検討し、使用する薬物を決定しております。

進行性腎がんの患者さんの約30%が骨に転移をされると言われています。骨の転移は痛みや骨折、また、背骨に転移した場合、脊髄神経が障害され下肢の麻痺をきたすことがあります、骨転移を適切に診断し治療することは極めて大切です。当院では積極的に骨転移の有無を骨シンチやCT、MRIで診断しており、骨転移が見つかった場合は、整形外科、放射線腫瘍科と連携の上、骨転移による種々の症状の予防、治療に勤めております。